

(様式1)

自己評価表(最終)

愛媛県立土居高等学校

学校番号(3)

教育方針	人格の完成を目指して、徳・知・体の調和のとれた、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。	重点目標	新しい時代を生きる「人間力」の育成と「学校力」の向上 えがお まなびや ～愛顔を育む学舎を目指して～
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学力・進路保障	確かな学力の定着	ICTの活用やアクティブ・ラーニングの手法を取り入れることで「分かる授業」の実践に努め、生徒の授業への満足度を80%以上にする。 A: 80%以上 B: 79%~75% C: 74~70% D: 69%~65% E: 64%以下	A	ロイロノート等のICTを活用して、「分かる授業」を実践した結果、生徒の授業への満足度は90%を超えている。今年度から教員相互授業参観週間を設定した。教員同士が互いに授業を参観し、意見交換したことが授業改善につながっている。	確かな学力の定着を計るために、タブレット等のICTを効果的に活用する方法について研鑽を重ねていく。
		学習習慣の定着を目指し、1、2年生は週15時間以上、3年生は週20時間以上の家庭学習時間を確保させる指導を行う。 A: 90%以上 B: 89~70% C: 69~50% D: 49~40% E: 39%以下(目標時間達成率)	C	昨年と比較すると、3年生は2年時より増加し、2年生は昨年の2年生より増加している。しかし、学校全体では減少しており、家庭学習時間が十分には確保できていない。	調査発表中や調査期間中は、しっかり学習している生徒が多く、放課後も残って自主的に学習する生徒も見られる。授業に取り組む姿勢も向上しているため、生徒が、更に意欲的に家庭学習を行うことができるよう工夫する。
	進路実現	国公立大学、私立大学を含む進学希望者の進学先決定率を100%にする。 A: 100% B: 99~95% C: 94~85% D: 84~80% E: 79%以下	B	国立大学と難関私立大学にそれぞれ合格者を出すことができた。ホームルームでの指導や個別指導等の成果が現れており、ほぼ順調に進路を決定できた。	3年生の志望校種等について早期に面談し、模試対策等に1学期から着実に取り組ませる。1・2年生の基礎力診断テストなどに丁寧に取り組み、学力を大きく向上させた生徒も見られるため、サポートを継続する。
		希望する事業所への就職決定率を100%にする。 A: 100% B: 99~95% C: 94~85% D: 84~80% E: 79%以下	B	夏休みまでに進路の方向性が明確でなかった生徒も、売り手市場のおかげもあり、ほぼ順調に内定をいただくことができた。公務員受験等への対策は、今後改善すべき点である。	就職希望者には、企業説明会や工場見学等で学んだことに基づいて、希望業種等について考えさせる。出席状況の改善をはじめ、進路実現に向けての自律生活の確立を計画的に図っていく。
生徒指導・安全教育	基本的生活習慣の確立	心身の健康を維持する重要性を継続的に指導しながら、年間の出席率97%以上を維持する。 A: 97%以上 B: 96~90% C: 89~80% D: 79~70% E: 69%以下	B	現時点での出席率は、95.9%である。コロナ禍で多くの学校行事が縮小となり、心身の健康を維持させるのが困難な背景も感じられる。	学校生活に目的を持たせ、基本的生活習慣を確立させるための指導を更に工夫する。スマートフォン等の使用については、生活のリズムを崩すだけでなく、人間関係上のトラブルを引き起こす事案が増加しているため、家庭と連携した対策の実施を急ぐ。
		身だしなみ指導において、年間合格率90%以上を目指すとともに、ルールを遵守する意識やマナーの向上に取り組む。 A: 90%以上 B: 89~85% C: 84~75% D: 74~70% E: 69%以下	B	1年生の4月合格率70%は、校則を十分に理解できていない時期であることが理由である。全体の身だしなみ合格率は92%となっており、1年生も1月には95%にまで向上している。3年生の1月合格率が、90%に低下していることが懸念される。	学年が進むにつれ合格率が向上しており、学校生活を通して自律の姿勢が養われている。特定の生徒が、複数回再指導を受けるケースが増加しているため、次年度も日々の根気強い指導を継続する。
		コミュニケーション能力の向上に向け、積極的に笑顔で挨拶のできる生徒100%を目指す。 A: 100% B: 99~95% C: 94~85% D: 84~80% E: 79%以下	C	アンケート結果では、先生への挨拶については90%以上の生徒ができていたが、生徒同士の挨拶については、50%程度の実施にとどまっている。	自主的に挨拶ができる生徒が多い状況を踏まえ、挨拶ができていない生徒に対しては、教師側からの挨拶を心掛け、好ましい関係づくりに努める。
	安全意識の育成	交通マナーの遵守を働きかけ、交通事故防止に向けた取組を年間10件以上行う。 A: 10件以上 B: 9~8件 C: 7~6件 D: 5件 E: 4件以下	B	一昨年度の県自転車交通マナー向上対策指定校における取組の継続に努め、登下校時の交通指導や生徒対象の交通安全教室を実施した。警察と連携した登校指導については、交通委員と教職員で毎月実施し、定着している。	前年度の取組を生かし、自転車通学性のみならず、全ての生徒が安全に登下校できるよう対策を進めていく。特に年度当初は、重点的な強化を図る。

豊かな人間性・個性の伸長	個性の伸長	朝読書を実施するとともに、読書を推奨し、生徒一人当たりの読書冊数を平均6冊以上にする。読書会などの行事を主宰し、言語活動の充実を図る。 A：6冊以上 B：5～4冊 C：3～2冊 D：1冊以上 E：0.99冊以下	B	読書冊数は一人当たり4.2冊であり目標を達成することはできなかった。なお、日頃の読書習慣が身に付いており読書冊数の多い生徒ほど冊数の把握が難しく、アンケートの回答に反映されにくい実態がある。図書室を利用する生徒は一定数いるが、図書を借りる生徒は限られている。	イベントの開催やレイアウトの工夫など、生徒にとって魅力的な図書室になる取組を、図書委員と一緒に進める。
		充実した学校生活を送らせるために、部活動加入率を90%以上とする。 A：90%以上 B：89～85% C：84～80% D：79～75% E：74%以下	B	運動部・文化部合わせて、年度当初の部活動加入率は、88%であった。ただ、特に1年生で、途中で退部する生徒が多くなってきているように思う。	来年度も、各部でリーダーの育成を図りながら活発な活動を促すとともに、途中退部者を減らす方策を具体的に検討する。
	豊かな人間性・思いやりの心の育成	各生徒が年2回以上ボランティア活動に参加し、地域との交流を深め、社会貢献に対する意識を高める。 A：2回以上 B：1.99～1.5回 C：1.49～1.2回 D：1.19～1.0回 E：0.99回以下	C	今年度も新型コロナの影響により、実施された活動が川駅の清掃活動、天満公民館祭、親子ふれあい風あげ大会等の限られた活動にとどまり、生徒の参加に関する目標は達成できなかった。	地域で継続して実施されているボランティア活動については、周知の方法を工夫して、更に積極的な参加を呼び掛ける。様々な地域及び形式等で実施されている、新たなボランティア活動も紹介する。
		いじめ問題の防止に向けた取組を年間10件以上行い、相手を尊重する意識を高める。 A：10件以上 B：9～8件 C：7～6件 D：5～4件 E：3件以下	B	実態把握のためのアンケートの実施や、定期的な面接週間の設定を通して、生徒の小さな変化やサインを見逃さないよう努めた。年間に複数回、いじめ相談ダイヤルやSNS活用相談窓口など、生徒が利用しやすい相談方法について資料を配付し伝えた。	インターネットに関わる問題については、非行防止教室や人権・同和教育講演会等を通して理解を深めるとともに、ネットいじめの防止についても学ぶ機会を多く設定する。保護者への啓発方法についても具体的に検討する。
地域との連携・学校の魅力化	保護者・地域との連携	P T A 関連行事（公開授業、講演会を含む）への出席率30%以上を目指す。 A：30%以上 B：29～25% C：24～20% D：19～15% E：14%以下	-	新型コロナ感染防止のため、総会や運営委員会を書面開催とし、研修旅行や親睦レクバレーなどP T A 関連行事も大半を中止とした。従来の活動内容等を把握していない委員が増えている。	今後の業務の引継ぎ等を確実に行うとともに、P T A 組織や運営の在り方を見直し、改編していく方向で協議を進める。
		保護者、地域への教育活動の公開日を年間10日以上確保するとともに、来校者数の増加を図る(コロナ感染症の状況により変更あり)。 A：10日以上 B：9～8日 C：7～6日 D：5～4日 E：3日以下	A	学校の公開日については、年間10日以上確保することができた。新型コロナ感染防止対策を実施しながらの公開となったが、公開日数とともに来校者数も増加してきている。	新型コロナウィルス感染防止対策を徹底しながら、可能な範囲で学校の公開に努めるとともに、地域及び周辺に積極的に周知する。
	魅力ある学校づくり	各コースを紹介するコーナーを設けるなどしてホームページを毎日更新するとともに、新聞社や地元ケーブルテレビを通して教育活動の内容を積極的に保護者や地域に発信する。 A：180回以上 B：179～150回 C：149～120回 D：119～100回 E：99回以下(更新+報道の回数)	A	各コースの紹介コーナーの準備を進めたが、設置はできなかった。ホームページについては、各コース等からも積極的に情報発信が行われ、250件以上の更新ができた。新聞社や地元ケーブルテレビにプレスリリースを行ったが、新型コロナの影響もあり、取材は少なかつた。	各コースを紹介するコーナーの設置を進める。今後も、学校ホームページの更新やプレスリリースを積極的に行い、学校の魅力を発信し続ける。
農産物販売実習や、地元保育園・小学校・中学校等との交流事業を年間10件以上実施して生徒の自己肯定感とコミュニケーション能力を高めるとともに、地域との連携に努める。 A：10件以上 B：9～8件 C：7～6件 D：5～4件 E：3件以下		A	新型コロナの影響を受けたものの、毎年計画していた交流行事を9割ほど実施できた。交流会等を実施することにより、生徒たちの表情も豊かになり、心身共に成長していく姿が見られるなど、交流学习の重要性を認識できた。	交流活動等の内容については、地域等のニーズを取り入れたものになるよう、関係団体とも連携を進めて調整する。今後も、アグリコースの特徴を引き出した学習環境を整えていく。	

現職教育・業務改善	教職員の資質向上	教職員の資質能力の向上を図るため、各教員が1年間に2回以上、他の教員の授業を参観する。 A：2回以上 B：1.99～1.5回 C：1.49～1.2回 D：1.19～1.0回 E：0.99回以下	A	11月14日～18日の期間中に、教員相互授業参観週間を設定した。教員同士がお互いに授業参観を実施し、授業参観シートを提出し合うことにより授業改善に役立てた。	学校訪問研修への参加や、ICTを活用した遠隔授業の参観などを含め、他の教員の授業を参観する機会を増やす。参観した授業に対する分析や批評等を行う場を設ける。
		ICTを活用した授業研究および実践に結びつく教員研修を年間5回以上実施する。 A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回 E：1回以下	A	教員相互授業参観週間において、一人一台端末や電子黒板等のICTの積極的な活用を図ったほか、Forms（家庭学習時間記録やアンケートの実施）やTeams（全校朝礼のリモート開催）、EILSの活用に関する研修を実施した。	研修会という形式や回数等にとらわれず、普段の授業や学校行事における実践事例等を、教員間で学年会や教科会等を通じて共有を進める。
	適切な勤務時間・職場環境の改善	ICT活用の推進による業務の効率化を図ることで、時間外在校時間の月平均が45時間以内の教職員を80パーセント以上にする。 A：80%以上 B：79%～70% C：69～60% D：59%～50% E：50%以下	E	構内の連絡や周知等に校務系メッセージ機能や掲示板を使用し、紙媒体によるアンケート調査等も端末等を通して実施する形式に切り替えたが、業務の効率化は十分には進んでいない。時間外在校時間の月平均が45時間以内の教職員は45%弱であり、目標達成はできなかった。	各課の業務が特定の教員に集中しないように分担するとともに、複数の教員で各業務を分担することにより、引継ぎ等が確実に行われるように配慮する。端末の利用等による業務の効率化を継続して進めるとともに、勤務状況等の正確な把握に努める。
		衛生委員会を充実させ、健康相談や健康に関する情報提供を年間10回以上行うことにより、教職員の健康の保持増進に努める。 A：10回以上 B：9～8回 C：7～6回 D：5回 E：4回以下	C	衛生委員会を定期的に開催し、教職員の健康について情報の共有を図り、健康診断の結果から受診が必要な者には受診を勧告した。11月に健康管理医による教職員健康相談を3名の教職員に実施したほか、2カ月に1回、健康相談室だよりをメッセージで全教職員に送付した。	衛生委員会で教職員の健康状態について情報交換を行う。学校医による教職員健康相談を実施したり、教職員厚生室によるメンタルヘルス相談事業を周知したりすることで、健康について相談しやすい環境を作り、教職員の心身の健康の維持・向上に努めていく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。